

**令和6年度 第2回川崎市社会教育委員会
有馬・野川生涯学習支援施設専門部会会議録（要旨）**

日 時 令和6年11月1日（金）10:00～12:00
会 場 有馬・野川生涯学習支援施設 2階 グループ室
出席者 部会長 小倉 敬子（公益財団法人かわさき市民活動センター 理事）
委 員 生駒 みを（菅生中学校区地域教育会議 副議長）
津田 知充（宮前第一地区社会福祉協議会 会長）
鴨志田 由美（市民委員）
山本 啓子（市民委員）
指定管理者 石渡館長（アクティオ株式会社）三枝（アクティオ株式会社）
事務局 宮前区役所生涯学習支援課（宮前市民館）大木課長（館長）、
石川担当課長、加古主任
欠席者 委 員 加賀 勉（川崎市立有馬中学校 校長）
本田 明子（川崎市立有馬小学校 校長）
森 敬起（西野川町内会 会長）

会議の成立 （委員8名中5名出席）

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

- 1 あいさつ（宮前市民館長）
- 2 資料確認等
- 3 議 事
 - （1）令和5年度所管課評価について
 - （2）令和6年度上半期 管理運営業務報告について
 - （3）令和6年度上半期 利用実績・事業・収支報告について
 - （4）その他

配付資料

- 資料1 令和5年度所管課評価（指定管理者制度活用事業 評価シート）
資料2 令和6年度第2回有馬・野川生涯学習支援施設専門部会資料

（その他）

- ・アリーノニュース 10・11月号
- ・としょだより 秋号

開 会

1 あいさつ（宮前市民館館長）

2 資料確認等

3 議 事

（1）令和5年度所管課評価について

大木館長が資料1を用いて説明。

（質疑応答）

鴨志田委員

今まで課題となっていた野川地区への活動の広がりがアウトリーチ事業によりつながったのは明るい兆しである。ただコロナ禍で活動が休止してしまい、メンバーの高齢化など、活動が難しくなっている中、若い世代をどう取り込むかが課題である。

小倉部会長

野川地区での活動については、今後も維持・継続していただき、新しい事業に取り組んでいただきたい。

津田委員

アウトリーチ事業の評価は地域でも非常に高い。しかしまだ多くの住民にとってアリーノ（有馬・野川生涯学習支援施設）の認識が低いのが現状。どのような活動をしているのかを知ってもらうことが今後の課題である。南野川小学校での実施も考えられるが交通の便が悪いため、しばらくは野川小学校で活動していくのがいいのではないかな。

山本委員

野川地域は公共施設が少ないため、アウトリーチ事業を通じ、今後も幅広い年代の方に事業が広がっていくといい。

小倉部会長

利用実績等を維持していくのは大変難しいなか、指定管理者の頑張りがみられる。今後も維持してほしい。

（2）令和6年度上半期管理運営業務報告について

石渡館長が資料2－①を用いて説明。

（質疑応答）

小倉部会長

人員体制について、地域内雇用をしているのは良い。是非継続していただきたい。9月に行った接遇研修について教えてほしい。

石渡館長

利用者の不満の原因は、コミュニケーション不足にある。同じことでも人によって対応が異なったり、スタッフのローテーション勤務によるすれ違いが生じたりしていたため、職員、スタッフ、図書と3種類ある日報を全員がすべて確認するようにした。

何をするにしても笑顔が大事。朝礼時に唱和をし、お客様を迎える準備をしている。

小倉部会長

日報すべてを確認することは、職員の連帯感が生まれ、より事業の向上につながると思う。参考になった。

(3) 令和6年度上半期利用実績・事業・収支報告について

石渡館長が資料2-②～⑥を用いて説明。

(質疑応答)

鴨志田委員

子育て世代の若い方に足を運んでほしい。子育て・こども関係の事業のうち、離乳食講座と幼児食講座の2つが中止になったのはなぜか。

石渡館長

募集したが人数が集まらなかった。今後は募集の仕方、時期等の見直しも考えたい。

鴨志田委員

開催前の情報収集もお願いしたい。

小倉部会長

子育て・こども関係の講座について、区役所や関連部署と連携してやっているのか。保健所での子どもの健診など、ターゲットになる人が集まるところで広報したり、地区担当保健師と連携したりすると人を集めやすいのではないか。

石渡館長

今後は他部署との連携、募集時期の検討、広報活動をしっかりとやっていきたい。

津田委員

職場体験については有馬中学校はやっているが、野川中学校の生徒も来てくれると、アリーノとの接点ができるのではないか。

石渡館長

野川中学校も職場体験を実施していると聞いている。実際、野川中学校からも要望はきていたが、有馬中学校と希望日が同日だったため、先にご連絡を頂いた有馬中学校を優先した。日程変更が可能であればお受けしたかった。

大木館長

昨年度は野川中学校も実施していた。

生駒副部会長

地域図書室運営事業に「トショリンピック開催」とあるが、具体的にどのようなものなのか。

三枝氏

地域の子どもたち向けに開催している。本を借りるたびにカードにスタンプを押し、スタンプがたまるとガチャガチャが回せて、折り紙で作った手作りのカブトムシなどをプレゼントしている。期間中に15冊借りるとメダルがもらえるもので、オリンピックとかけたネーミングである。

生駒副部長

折り紙は誰が作っているのか。

石渡館長

当施設のスタッフや、アリーノの事業で折り紙をやっている人を中心にやっている。

小倉部会長

利用者からの意見・要望等については、大きな苦情がなくてよかった。ご意見・要望をいただくとその都度話し合い、改善して今に至っている。以前は利用者からの声をアリーノニュースに載せていた。何かがあった時に対応するというイメージを持ってもらうのも大事であり、アリーノニュースを利用者とのコミュニケーションツールとして使うといいのではないかな。

石渡館長

アリーノニュースについては、タイトルにホームページのQRコードを載せるようにした。各部屋の案内を見ることができるので、利用者増加につながればと思う。当施設をよく知ってもらうために、インスタグラムにも力をいれて取り組んでいる。

定員に満たなかった講座の情報がタウンニュースに載ったら、定員を上回る参加があり大変好評で、広報の大切さを学んだ。今後とも広報に力を入れていきたい。

小倉部会長

アリーノニュースは、市民活動センターにも配架してあるか。エリアが違うが、アリーノから武蔵小杉にはバスも通っており、交通の便も悪くない。大きなイベントだけでもチラシを配架すると参加希望の方も増えるのではないかなと思う。

さらに、サイネージを館内に設置して、イベントや講座の情報を繰り返し流すと、来館者にどのようなことをやっているかが伝わるのではないかな。

私が関わっている宮前区社会福祉協議会では、新たに「一芸ボランティア」の登録を始めた。楽器演奏や南京玉簾などを高齢者や子どもの施設などに派遣する仕組みになっているので、よかったら活用してはどうか。

生駒委員

アリーノのような場では、単にイベントが楽しただけで終わらずに、親同士のつながりができる仕組みが大切。子どもが小さいときにしっかり親同士のつながりを作り、お互いの良さを知れば、職場に戻って仕事をしながらでも続いていくと思う。

子育て期の女性にかかっている様々な問題について、社会的な勉強も含めてやれるようになったらいいし、子育て支援に力を入れてもらいたい。

小倉部会長

乳幼児親子の集まれる場所を作ると、アリーノの売りになる。

鴨志田委員

児童室が自習室の隣にあって、声を出すと受験を控えた学生の迷惑になりそうで使い勝手が悪い。目的なく遊べる場がアリーノにあるといいのだが。

山本委員

以前、子ども文化センターで働いていたが、好きな時間に来て好きな時間に帰れるし、集まれば皆でお喋りしてお友達も作れる。情報も入るし、何か困ったことがあったら相談もできて、乳幼児と親の居場所になっていた。精神的にストレスが溜まるお母さんたちが集まることができ、心のつながりができる場所にアリーノになるといい。

(4) その他（次回の開催日程について）

第3回専門部会は、3月上旬に複数の候補日を設定し、後日欠席者の都合を踏まえて決定することになった。→3月6日（木）に開催することになった。